

2021年度学生生活実態調査報告

—自由記述から見るコロナ禍2年目の学生生活について—

安住 伸子

はじめに

2020年に新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから2年が経過した。2021年度は授業が1か月遅れでしかもすべてオンラインで始まった2020年度と違って、5月に非常事態宣言が再度発出されるまで通常通り対面授業が行われたり、後期の始めに学科ごとに入學式が行われたり、その後実習やゼミなど対面でなければならない授業は対面で、遠隔で行える授業は遠隔でというスタンスが少なくとも後期半ばまで続いた。秋になり、活動制限レベルが緩和されてからは、キャンパスに学生の姿もちらほら戻ってくるようになった。この年を大学生1年目で迎えた学年と、2年目で迎えた学生とでは、学生生活に対して感じることも違うだろう。通常の大学生生活を経験した上でのコロナ禍を経験した3年生、4年生もまた異なる印象を持っただろう。今年度後期のはじめにおこなった学生生活実態調査（以下実態調査）では、昨年度の実態調査で行った自由記述によるアンケートと同じように「今年度前期を振り返って、あなたが感じたことを自由に記述してください」という内容の自由記述欄を設けたので、その結果を報告する。なお、この調査については神戸女学院大学人間科学部の倫理審査を受けている（審査番号21-1）。

方法

2021年9月10日から11月末日まで、本学に在籍する学部学生及び大学院生およそ2420名を対象とし、681名から回答を得た（詳細については別稿参照）。回収率は27.98%で、その中で、自由記述に記載があったのは187名であった。今回はこの187名の記述を調査対象とした。

調査方法として、この187名の自由記述を、第1調査者A（学生相談歴30年以上の臨床心理士）と第2調査者B（同25年以上の臨床心理士）とで詳細に分けたところ、全部で239の文章に分けられた。これら239の自由記述の回答を、上記A Bの調査者で、2020年度の実態調査で分けられたカテゴリをもとにカテゴリ分けを行った。その結果、2020年度の調査で使用された9個のカテゴリに加えて、どうしても項目を増やす必要があると両者が判断した、「㊟オンライン授業と対面授業の混在について」「㊟大学生活について」、の2カテゴリを追加し、再評価を行った。その結果両者の一致率は98.83%であった。

結果

2021年度実態調査に回答があった調査回答者は表1のとおりで2021年10月31日現在の在籍学生の属性は表2の通りである。在籍学生数に対する自由記述の回収率は3.60%、年齢は18～38歳で平均年齢は20.1歳であった。自由記述回答者の属性は表3の通り、実態調査の回答者のうちの自由記述回答者の属性別割合は表4の通りであった。学科別でみると文学研究科が100.0%と最も高く、総合文化学科（以下総文）31.0%、英文学科（以下英文）29.9%、人間科学研究科が25.0%、環境バイオサイエンス学科（以下環境）27.0%、音楽学科（以下音楽）が22.2%、心理行動科学科（以下心理）19.5%が自由記述に回答した。2020年度の調査では総文、英文、心理、環境、音楽、研究科の順に多かった。学年別では2017年以前の入学者が50.0%で、2021年次入学（1年生）が33.9%、2019年次（3年生）が32.3%で、2018年次入学（4年生）は22.8%、2020年次（2年生）の割合が19.7%と最も少なかった。2020年度では2018年次

表1. 2021年度学生生活実態調査 調査回答者の属性(単位:名)

所属	入学年次						合計
	2021年次	2020年次	2019年次	2018年次	2017年次以前		
学部							
英文学科	33	52	35	33	1		154
総文学科	90	67	42	36	4		239
音楽学科	16	8	3	0	0		27
心理・行動学科	37	44	26	25	1		133
環境バイオ学科	46	27	18	20	0		111
大学院							
文学研究科	2	1	0	0	0		3
音楽研究科	1	0	0	0	0		1
人間科学研究科	2	4	2	0	0		8
合計	227	203	127	114	6		677

実態調査の回収率 27.98%

表2. 2021年度10月31日現在の在籍学生数(単位:名)

所属	入学年次					合計
	2021年次	2020年次	2019年次	2018年次		
学部						
英文学科	92	157	156	163		580
総文学科	175	225	220	230		865
音楽学科	42	38	48	25		155
心理・行動学科	90	114	106	108		423
環境バイオ学科	77	83	102	77		350
大学院						
文学研究科	2	5	1	0		8
音楽研究科	6	10	0	1		17
人間科学研究科	10	10	2	0		22
合計	494	642	635	604		2420

表3. 2021年度学生生活実態調査 自由記述回答者の属性(単位:名)

所属	入学年次						合計
	2021年次	2020年次	2019年次	2018年次	2017年次以前		
学部							
英文学科	12	15	11	8	0		46
総文学科	37	14	10	10	3		74
音楽学科	5	0	1	0	0		6
心理・行動学科	8	3	12	3	0		26
環境バイオ学科	12	6	7	5	0		30
大学院							
文学研究科	2	1	0	0	0		3
音楽研究科	0	0	0	0	0		0
人間科学研究科	1	1	0	0	0		2
合計	77	40	41	26	3		187

自由記述の回収率 3.60% 年齢 18~38歳 平均年齢 20.1歳

表4. 2021年度学生生活実態調査 調査回答者に対する自由記述回答者の割合

所属	入学年次					合計
	2021年次	2020年次	2019年次	2018年次		
学部						
英文学科	36.4%	28.8%	31.4%	24.2%		29.9%
総文学科	41.1%	20.9%	23.8%	27.8%		31.0%
音楽学科	31.3%	0.0%	33.3%	0.0%		22.2%
心理・行動学科	21.6%	6.8%	46.2%	12.0%		19.5%
環境バイオ学科	26.1%	22.2%	38.9%	25.0%		27.0%
大学院						
文学研究科	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%		100.0%
音楽研究科	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%
人間科学研究科	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%		25.0%
合計	33.9%	19.7%	32.3%	22.8%		27.6%

(3年生)、2020年次(1年生)、2019年次(2年生)、2017年次(4年生)の順に多かった。

カテゴリ別

自由記述の内容をカテゴリ別に分けたものが表5、内訳を示したものが図1である。2020年度のカテゴリ内訳は表6と図2に表した。2020年度と比較すると自由記述回答数は483から239とほぼ半減した。これによると「⑩オンライン授業と対面授業の混在について(15.9%)」が最も多く、「⑪大学生活について(14.6%)」「④自分自身について-(13.8%)」「⑥コミュニケーションについて(11.3%)」「①オンライン授業について+(11.3%)」「⑤自分自身について+(7.9%)」「③大学に対して(7.1%)」「①オンライン授業について-(6.7%)」「⑨就活・留学・卒論等について(6.3%)」「⑧経済的なことについて(3.3%)」「⑦

家庭・家族について(1.7%)」の順に多かった。2020年度は「①オンライン授業について-(31.3%)」「④自分自身について-(17.6%)」「②オンライン授業について+(15.9%)」「③大学に対して(11.6%)」「⑥コミュニケーションについて(8.7%)」「⑧経済的なことについて(6.2%)」「⑤自分自身について+(4.3%)」「⑨就活・留学・卒論等について(3.5%)」「⑦家庭・家族について(0.8%)」であったことと比較すると、最も多かった「⑩オンライン授業と対面授業の混在について」と「⑪大学生活について」は2021年度で追加されたカテゴリなので比較はできないが、昨年度最も多かった「①オンライン授業について-」は31.3%から6.7%と1/5に減少しており、昨年度は4.3%しかなかった「⑤自分自身について+」は7.9%、「⑨就活・留学・卒論等について」も3.5%から6.3%とほぼ倍増しており、逆に「④自分自身

表5. 2021年度自由記述回答のカテゴリ別内訳

カテゴリ	⑩オンライン授業と対面授業の混在について	⑪大学生活について	④自分自身について－	②オンライン授業について＋	⑥コミュニケーションについて－	⑤自分自身について＋	③大学に対して	①オンライン授業について－	⑨就活・留学・卒論等について	⑧経済的なことについて	⑦家庭・家族について	合計
自由記述回答数	38	35	33	27	27	19	17	16	15	8	4	239
%	15.9%	14.6%	13.8%	11.3%	11.3%	7.9%	7.1%	6.7%	6.3%	3.3%	1.7%	100.0%

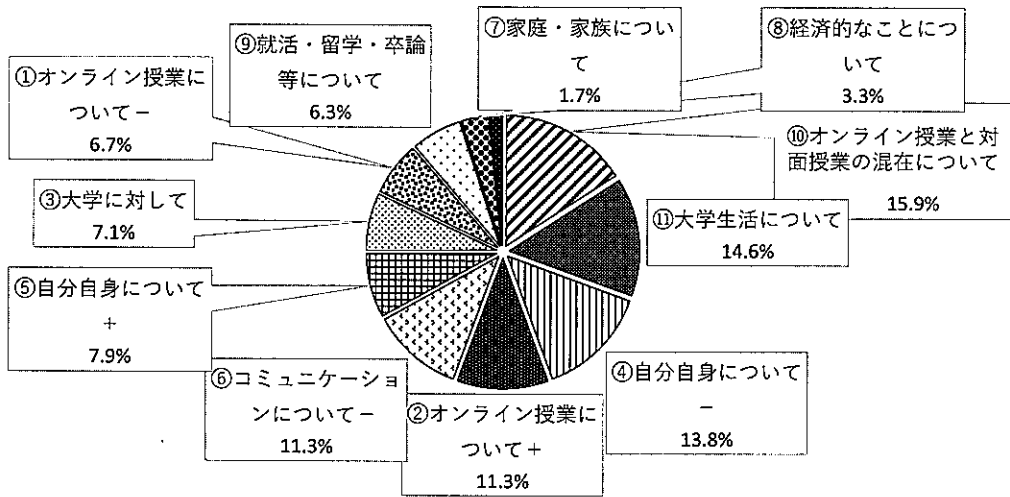


図1. 2021年度自由記述のカテゴリ内訳 (%)

について－」は17.6%から13.8%、「②オンライン授業について＋」は15.9%から11.3%、「③大学に対して」は11.6%から7.1%、「⑧経済的なことについて」は6.2%から3.3%と大幅に減少していた。「⑥コミュニケーションについて」は8.7%から11.3%と微増しており、「⑦家庭・家族について」0.8%から1.7%と横ばいであった。

最も多かった「⑩オンライン授業と対面授業の混在について」は、具体的には「Zoom 授業の後に対面授業があるのは、結局大学に行かなければならなくて感染対策になってないと感じた (1年)」「ころころ授業形態が変わることが苦痛だった (1年)」「対面授業のすぐ後にパソコンでライブ授業を受けなければならなかったのが、授業を受けられる場所を探すのが大変だった (3年)」など、オンライン授業と対面授業の両立が難しい、という意見が38件中15件あった。そのほか「週

1、2回しかない対面授業のために定期を買うかどうか悩んだ (2年)」「どのステージに移行しても Zoom での出席は認可されるようにしてほしい (3年)」など、遠隔授業よりの記述も見られた。

「⑪大学生活について」この項目を設けたのは2021年度は入学式や卒業式が学科ごとではあったが参集でおこなわれ、実験実習など対面でなければできない授業は対面でおこなわれるなど、2020年度に比べて「大学生活」の感触が若干復活してきたことが背景にある。具体的には「大学生活がもう少しでなくなってしまうという喪失感もかなり大きい (4年生)」「最後の学生生活を楽しみなかった! (4年)」と大学生活がこのまま終わってしまう寂しさや、「通学最高です (2年生)」「大学に通えるありがたさを実感しています (2年生)」という対面授業が復活した事への喜びがある一方

表6. 2020年度自由記述回答のカテゴリ別内訳

カテゴリ	①オンライン授業について-	④自分自身について-	②オンライン授業について+	③大学に対して	⑥コミュニケーション	⑧経済的なことについて	⑤自分自身について+	⑨就活・留学・卒論等について	⑦家庭・家族	合計
自由記述回答数	151	85	77	56	42	30	21	17	4	483
%	31.3%	17.6%	15.9%	11.6%	8.7%	6.2%	4.3%	3.5%	0.8%	100.0%

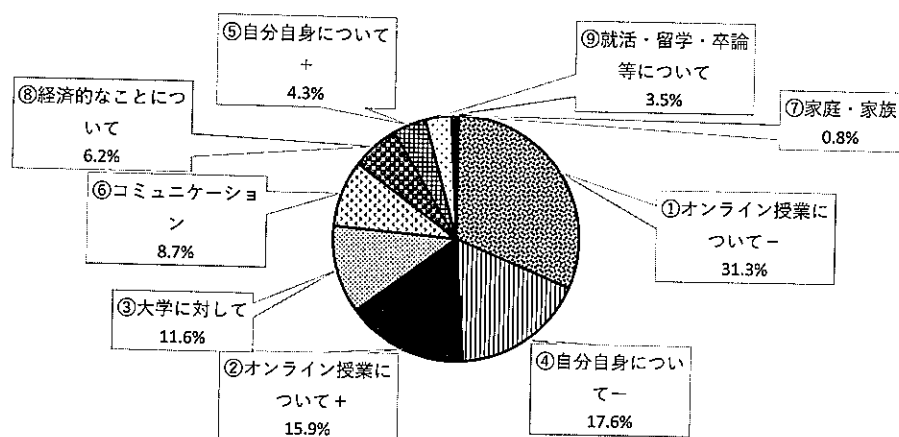


図2. 2020年度自由記述回答数カテゴリ内訳

で、「受験の時は大学生生活がとても楽しかったはずなのに自分が何のためにここへきて何をできなかったのかわからなくなりました(1年生)」とアイデンティティが混乱している記述もみられた。

「⑤自分自身について+」が「自分自身について-」を上回り、しかもほぼ倍に増えたというのも2020年度からの大きな変化である。「大学は自主的に勉強していかないといけない場所なのだと実感することができた(1年)」や、「一人は楽だと感じた(2年)」「健康に気をつけようと心境の変化があった(2年)」など、今の状況を前向きにとらえようとしている向きが、2年生に見られたことは興味深い。

「⑥コミュニケーションについて」は昨年度からの微増だったが「友人と就活について話す機会がほとんどないまま夏休みに入ったため、自分だけが全てうまくいってないかのような気持ちになった(3年)」や「友達ができないことで情報交換を行う機会が少なかった(1年)」や「他の生徒らと

の会話が少なく交友関係を築くことができなかったのは残念(1年)」や「寮生活を始めたこととオンラインで直接的な関りをなかなか持てなかったことから少し孤独感を感じた(1年)」や「友達が欲しい(1年)」や「精神的につらかった(3年)」などなかなか人と交流できないことによるシビアな状態であることがうかがえる一方で、「グループ発表などで友達ができてよかった(1年)」や「友達と会って話すことが、以前よりも楽しくなった(1年)」や「学校に行き先生や友人と会えることは恵まれていることだとすごく感じた(4年)」や「去年よりは人との交流が増えたことがよかった」と対面授業によって前向きな記述もあった。

「②オンライン授業について+」については、昨年度からやや減ったものの、「自分のペースで勉強できてよかった(1年)」や「リモートだからこそ楽しかった授業もあった(4年)」や「とてもよかった(1年)」や「持病を持ち体調が不安定な私にはよく合っていた(1年)」や「時間を有意義に使うこと

ができた（1年）」「パソコンのスキルがアップした（1年）」「前期に入院していたが、オンライン授業があったおかげで休学せずに授業を受けることができた（3年）」などオンライン授業が合理的配慮の役割を果たしたような記述も散見された。

「④自分自身について-」では昨年度よりは減少したが「無駄に時間を過ごして無駄に単位を落とした（2年）」「『これを頑張った』というものがすぐに思い浮かばないため、無駄に時間を過ごしてきたのではないかと感じる（2年）」「今していることに意味があるのか、わからなくなってしまった（2年）」「コロナ禍によって鬱っぽくなったと感じた（2年）」「つらい（2年）」「睡眠時間がとれなかった（1年）」「慣れない環境でストレスが多かった（1年）」など、メンタル不調を思わせる記述が1年と2年に多かったことは気にかかる。

「③大学に対して」は「ほとんど施設を使用したことがないのに学費が同じなのはおかしい（2年）」「卒論が書けるか不安。勉強できるスペースを設けてほしい（4年）」「課題が多い（1年）」「対面授業が少ない（2年）」など大学に通えないのに同じ学費を払わされることへの不満が多かったが、昨年度のように怒りや不満が噴出しているというような激しい記述は見られなかった。

「①オンライン授業-」は昨年度から半減したが、具体的には「遠隔授業に慣れてしまい、どうしても集中力が続かない」「遠隔授業が1時間を超えるととてもしんどい」といった遠隔授業そのものの負担感や、「自分たちはオンライン学習を1年経験してそれなりにパソコンを使えるようになったが教員の方はもう1年もオンライン授業をしているのに思うように使えてらっしゃらない方がいてもどかしく感じた」など教員へのシビアな感想もあった。

「⑨就活・留学・卒論等について」は昨年度から倍増した。「就活などの将来に対する不安から気分が落ちることが多かった（2年）」「就活の周りの状況が見えなかったのが不安（3年）」「就活が緊急事態宣言に振り回された（4年）」など就活に

関する記述が最も多く15件中8件あった。留学については世界的に国際交流がストップしている現状ではほぼあきらめざるをえないムードだが、就活についての悩みはより具体的な記述が増えた印象がある。

「⑧経済的なことについて」は昨年度から半減したものの「学費と授業の割合があっていない（1年）」「大学に週一しか行っていないのに学費が高すぎる（4年）」など学費に関するものが半数を占めており、不満がなくなったわけではない。「オンデマンド型の授業はいつでも受けることができるためバイトを自由に入れられるようになり収入はむしろ増えた（3年）」などポジティブな記述は1/4であった。

「⑦家庭・家族について」の記述はそれほど多くはなかったが、「家族との時間は好きだが少し負担に感じる日もあった（3年）」「オンラインでの際に家族に迷惑をかけてしまうが休みづらくてなかなか言い出せなかった（3年）」など家族に対して葛藤を感じている記述もあった。

学年別

2021年度の学年別による自由記述の回答数の構成比を表したものが図3で、図4は2020年度のものである。これによると2020年度にトップであった「①オンライン授業について-」は2021年度では8番目に下がり、4年生は「⑪大学生活について」が最も多かったが1～3年は「⑩オンライン授業と対面授業の混在について」が最も多かった。その次に多かったのは「④自分自身について-」で、中でも2年生と1年生に多くなっている。対面授業が少ないと他者と比較ができず、つい自分を責めがちになってしまうものと考えられる。4年生は「⑨就活・留学・卒論等について」の記述が多く、「⑩オンライン授業と対面授業の混在」に関する記述は1年生が若干他の学年より多く、4年生以上にはなかった。

学科別

学科別による2021年度の自由記述の回答数の構

成比を図5に表した。2020年度の学科別自由記述回答数のカテゴリ内訳は図6の通りである。⑩と⑪をのぞくと2021年度は「④自分自身について」「②オンライン授業について+」が多くなっており、2020年度とはオンライン授業に対する評価がかなり変わったことがうかがえる。音楽において⑩が最も多いのは実技やレッスンがあるため、早い段階から対面授業が始まっており、その合間にオンライン授業を受けるのが難しかったことが背景としてうかがえる。どの学科も総じて「③大学に対して」の不満の順位が下がり、「⑤自分自身について+」の順位が上がっていた。

居住形態別

2021年度の居住形態別の自由記述の回答数の構成比を表したものが図7である。「自宅」「学内寮」「下宿（一人暮らし）」「兄弟姉妹と共同生活」「その他」の5つに分類したが、「その他」は「親せき宅・祖父母宅に同居」「友人とルームシェア」といったパターンかと思われる。「その他」では

「④自分自身について-」の記述が多く、ストレスを抱えやすい傾向がみられた。「兄弟姉妹と共同生活」では「⑩オンライン授業と対面授業の混在について」の記述が多かった。「学内寮」では「⑥コミュニケーションについて」がやや他の居住形態より多く、「②オンライン授業について+」がなかった。せっかく学内にいるのにオンラインで授業を受けなければならないことに不満があったものと思われる。2020年度は2021年度との比較のために2020年度の前期の居住形態で集計をした（図8）。「前期一人暮らし」と「前期自宅」はコミュニケーションについての記述が見られたのに対し、「前期その他」では見られなかった。2021年度と比較すると「⑨就活・留学・卒論等について」が2020年度は「居住形態その他」に多かったが、2021年度では「その他」にはみられなかった。

考察

今回は主に2020年度の自由記述の結果との比較を試みた。まず、2021年度に「⑩オンライン授業

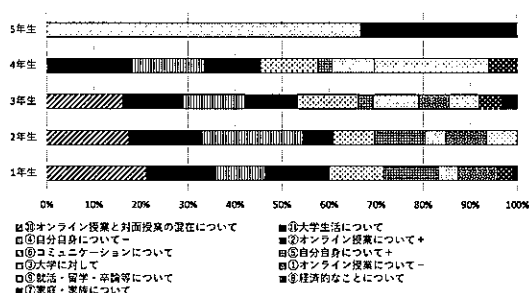


図3. 2021年度学年別自由記述回答数カテゴリ別内訳

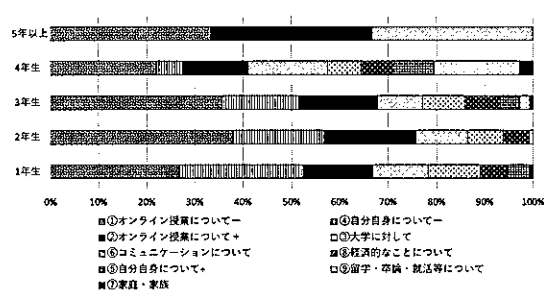


図4. 2020年度学年別自由記述回答数カテゴリ別内訳

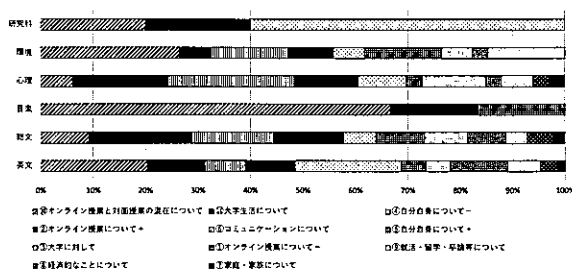


図5. 2021年度学科別自由記述回答カテゴリ内訳 (%)

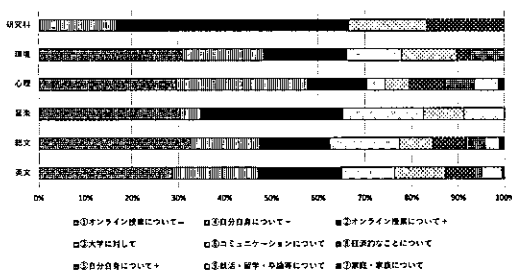


図6. 2020年度学科別自由記述回答カテゴリ内訳 (%)

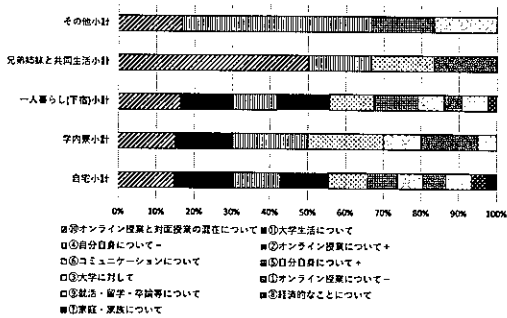


図7. 2021年度居住形態別自由回答の構成比 (%)

と対面授業の混在について」「⑩大学生活について」が新たに追加された。⑩が最も多かったが、対面授業とオンライン授業の両方がおこなわれた2021年度ならではのカテゴリと思われ、全体の15.9%を占めた。対面授業が再開されたことにより、そのあとにオンライン授業をZoomで受けなければならないなどの事態が生じたことで、授業を受ける場所や接続方法の確保に苦労した様子がうかがわれた。これは大学生協組合連合会による調査でも、1年生と2年生に多かった項目である(2021, 大学生協組合連合会)。「⑪大学生活について」が次に多かったのは、課外活動が一部認められ、オンラインではあったが大学祭が開催されるなど、2020年度にはなかった「大学生活」が戻りつつある感触があった一方で、失われたことが改めて浮かび上がってきたことが大きいだろう。通学できないことで「自分が何のためにここにきて何をしなかったのかわからなくなった(1年・学内寮)」「思い描いていた大学生活ができなかった(1年・自宅生)」と充実していないという回答が1年生に多かった。一方で「楽しく充実した約半年間だった(1年・自宅生)」「なんだかんだ言って楽しかった(2年・下宿生)」と今の生活を肯定する1、2年生もおり、「昨年度に比べ登校する機会や友人に会えて嬉しかった(3年・自宅生/3年・下宿生)」と、2020年度との比較の中で今年度を肯定する感想も見られた。失ったものにこだわる学生と、今あるもので満足しようとする学

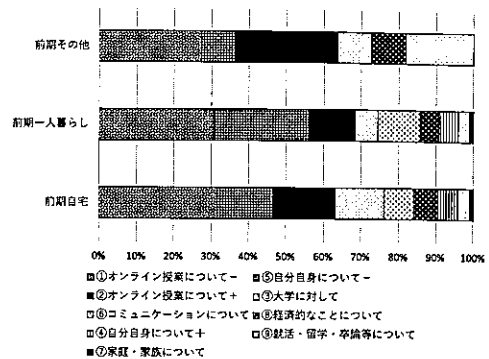


図8. 2020年度前期居住形態別自由回答カテゴリ内訳

生の違いとも言えるが、これを喪失からの回復のプロセスと重ねると、抑うつ・無力感の時期にある学生と、受容とアイデンティティの再構築の時期にある学生の違いと考えることもできるかもしれない。

昨年度最も多かった「①オンライン授業について-」は1/5に減少し、「⑤自分自身について+」と「⑨就活・留学・卒論等について」はほぼ倍増していた。①については1年かけてオンラインの授業形態に慣れ、そのメリットも見出し、適応が進んだ結果ともいえる。⑤もオンライン授業に慣れたことによる副産物として前向きな気づきを得ることができた学生もいたことの証左であろう。自分に対するコントロール権を取り戻すことは、健全なアイデンティティを獲得するためには必要なことである。「⑨就活・留学・卒論等について」では「大学に行かなかったため、就職に関する資料を得づらかった(総文・4年生)」「緊急事態宣言で就活が振り回された(英文・学内寮)」という記述がある一方で「就活に日中の時間を全振りすることができてよかった(総文・自宅生)」「自分の時間をうまく使うことができ、就活が捗った(環境バイオ・自宅生)」という記述も見られ、こちらは評価が二分するところであろう。だが大手企業の求人が停止されたことは卒業年度の学生にとっては大きな痛手であった。また留学については「どれも中止になり残念だった(英文・自宅生)」などの記述がみられたが、記述自体が少な

かったのはほぼあきらめムードの中で「留学したかったのに」と言い出すことすら憚られたのかも知れない。逆に「④自分自身について-」「②オンライン授業について+」「③大学に対して」「⑧経済的なことについて」は大幅に減少していた。とはいえ、「④自分自身について-」では、「海や自然を見たら涙が出てしまうくらいには病みました(1年・自宅生)」「課題が多く十分な睡眠時間が取れなかった(1年・自宅生)」「つらい(2年・その他)」「鬱っぽくなった(2年・自宅生)」「今していることに意味があるのか、分からなくなってしまった(2年・その他)」など、気がかりな記述を33件中1年が10件、2年が10件していることを考えるやはりなんらかのメンタルケアが急務であろうと思われる。全国大学生生活協同組合連合会によって2021年7月に行われた、コロナ禍の大学生生活アンケート(2021, 全国大学生生活協同組合連合会)でも、2年生が他の学年よりも不安が高く、特に「将来に対する不安を感じる(74.1%)」「意欲がわかず、無気力に感じる(51.4%)」「気分の落ち込み(47.1%)」「友人とつながれていない孤独感・不安(39.2%)」などが上位を占めているとの報告がなされている。「⑥コミュニケーションについて」は微増しており、27件中11件が1年生によるもので、「友達ができにくかったので、少し孤独な授業もあり、相談相手がなくて困った(英文・自宅生)」「友達と会って話すが、以前より楽しくなった(総文・学内寮)」など、総じて友人関係に関わる記述が多く、わずかな交友関係も大事にしようという姿勢が見受けられたのはよかった半面、今も人間関係が希薄になっている学生についてはどのようなサポートができるかを考えるのは大学側としての検討が必要であろう。「⑦家庭・家族について」は昨年度とほぼ同じ割合であったが、世間的にも家族内でのトラブルや事件が増えていることとコロナ禍は無関係とは考えにくく、学生も例外ではないと思われ、注意していく必要があるだろう。

終わりに

今回の自由記述に関する調査では2020年度の結果と比較した。オンライン授業と対面授業の混在についての記述が最も多かったのは昨年とは学生が困惑する局面が変わってきたことを示す。大学生活についての記述が増えたのは、昨年度は「これは臨時措置でいつか平常に戻るんだろう」と思っていた「学生生活(仮)」の概念が、「コロナ禍での学生生活」という概念になって意識されるようになったことを示すものであり、現状を受け入れ、失ったものと得たものを再認識するようになったともとらえられ、興味深い。オンライン授業に対するネガティブな評価は1/5に減少し、自分自身に対する肯定的評価が倍増したことも喪失からの回復過程の一段階ととらえることもできるかもしれない。

高石(2021)は大学生サイクルの中で、入学期、中間期、卒業期にそれぞれ体験的に獲得していくアイデンティティの遅れを指摘している。従来であれば1年生で得られた新たな人間関係を得られないまま2年生を迎えている現2年生、オンラインで通学が楽になり、楽しむこともできていた3年生、準備が十分にできないまま、先の見通せない社会に出ていかなければならない不安を抱えている4年生もそれぞれに心身の不調が増加しているという。そういった学生に対して我々ができることは何だろうか。新たな友人関係を得られるようなサポートや、社会に出ていくための準備をサポートすることも必要だろうが、まずなによりも自分自身が感じていることを言葉にし、再認識することからこころのケアは始まる。そのためにも今まで以上に学生がアクセスしやすく相談しに行こうと思える環境を整えることが急務であろう。2021年度はそのためにも対面でのグループプログラムとオンラインでのグループプログラムを行うなど試行錯誤をくりかえし、ある程度のアクセス数は取り戻せたもののまだ十分とは言えない。

自由記述にあったように持病や障がいのある学生にとってオンライン授業は合理的配慮の手段に

なりえた。それを今後も継続できるようにシステムを整えることも必要だろう。オンラインでの学びと対面での学びが選択可能な手段として併存することが理想だろうが、同じ学びを目指せるのかという根本的な問いと同時に大学のシステムとして可能なのかという疑問も生じる。そう考えると、大学生活に「適応する」ということは、従来大学生の側にのみ求められていたが、大学側のシステムの問題が問われてくることにもなる。

新型コロナウイルス感染拡大は災害であり、被災しているのは大学生だけではない。我々自身も感染から身を守りつつ、友人や家族などと微妙な距離をおきながら、こころの密は求めるという矛盾した関係を探らざるを得ない。2年にわたるコロナ禍の中で実感したのは学生がオンライン授業に適応してきたように、我々自身も新たな環境に適応するために進化していかなければならないということであった。対面だけでなく電話や Zoom など学生の相談の形態に選択肢が増えたことは画期的なことである。コロナ禍がもたらした大学生活の変容は長期にわたるものになるだろう。学生相談の目的は学生の現状を正しく把握し、適切な支援を送ることである。今後もこのような調査を続け、大学生の変化を追い、その時その時の局面にあわせた学生への支援のあり方を探る必要があるだろう。

参考文献

- 大学生協同組合連合会 届けよう！コロナ禍の大学生生活アンケート集計結果報告 2021.8.10
https://www.univcoop.or.jp/covid19/enquete/pdf/covid_enq_2108_02.pdf (2022.2.25参照)
- 高石 恭子 (2021) コロナ禍における大学生のメンタルヘルス 神戸女学院大学カウンセリングルーム 2021年度紀要 27, 印刷中
- 安住 伸子 (2021) 2020年度学生生活実態調査の自由記述についての結果報告 神戸女学院大学カウンセリングルーム紀要, 26, 29-38.